

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国英語教育研究団体連合会

(代表者 中村 勝徳 会員数 約60,000人)
TEL 03-3267-8583

1 前 文

今年で4年目となる共通テストでも、昨年と同様に過去のセンター試験で出題された発音やアクセント、語順整序等を単独で問う問題はなく、様々な資料や図表を通して英文を読み、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う内容となっている。外国語に関する様々な知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける、という学習指導要領における目標を反映した出題となっている。

本試験については昨年と比較し、大問は6問と変化がなく、設問数は39、解答数は49といずれも同様であった。本文と設問及び選択肢を合わせた総語数は約6,200語で昨年から約200語増えており、さらに受験者にとってはかなりの速読力が求められ、新傾向の問題も登場し、最後まで解き終えることができなかった受験者がいたことが予想される。一律な英文の読み方をするのではなく、素材となる英文の種類や示される図や資料等を理解し、目的に応じて様々な読み方をするのが要求され、設問の趣旨に合った読み方をしなければ時間が不足する。速読と精読のバランスの観点、特に思考力を測定する観点からすると、これ以上語数を増やすことは有効でないと考える。情報量が増え、問題も複雑になり、短い時間の中で単に注意力や情報処理能力を測定するような試験に陥るのではなく、じっくりと考える時間を設定して思考力を十分に測るような試験問題に改善することが求められるのではないかと考える。令和6年度「英語（リーディング）」の本試験の平均点は「51.54点」であり、昨年「53.81点」から「2.27点」下がり、やや難化したという結果になった。さらに一昨年の本試験の平均点「61.80点」から考えると、この3年間でかなり難化したということになる。正答率や得点分布を見る限りでは、大きな偏りなどはないが、難易度は共通テストに挑戦しようとする受験者の動機づけにも影響すると思われるため、慎重な検討をお願いしたいところである。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

令和6年度の共通テスト追・再試験「英語（リーディング）」は以下のような構成であった。

大問		内容	配点	設問数	解答数
第1問	A	ハイキングコースについてのチラシ	10	2	2
	B	ボランティア活動についての学校ウェブサイトの情報		3	3
第2問	A	通学している大学近くの自転車店の広告	20	5	5
	B	移動手段のプロジェクトに関するオンライン記事		5	5
第3問	A	オーストラリアでの一人での食事に関するブログ	15	2	2
	B	オンライン日記でのやりとりに関するポスト		3	6
第4問		イベントに参加するボランティア活動の会議資料	16	5	6
第5問		自分の大学を卒業した人物のエッセイ	15	5	9
第6問	A	信じ込む仕組みについての記事	24	4	5
	B	服の生地についての雑誌の記事		5	6

第1問 資料に示された事項についての情報の読み取りとその内容の読み取りに関する設問である。設問数は5問、10点の配点で昨年と同じである。実際のコミュニケーションで出会う様々な形式の情報を読み取り、その情報を基に必要な情報を把握する力が求められる問題である。

A 学校のクラスで出かけるハイキングの内容について書かれたフライヤーを読み、その内容を読み取る問題。問1、問2ともに平易な問題であり、こういった取り組みやすい問題から始まるのは好ましいが、第3問以降の難易度を考えるとやや平易過ぎるとも言える。全体を通して難易度のバランスを考慮されたい。また、本試験の第1問Aとの情報量の差や語彙の強度の違いもあり、この点は追・再試験受験者にとっての公平性に関わることであるので留意されたい。

B 学校のウェブサイトを示されたボランティア活動についての記事を読み、必要な情報を読み取る力が問われている。平易なレベルで取り組みやすく、設問にあいまいさはないと思われる。しかし、問3の選択肢については再考の余地があると思われる。他の3つが明らかに偽肢であるので正解は②に決定されると思われるが、その根拠は②の“Student-volunteers sometimes adopt animals.”と問題文9行目の“… many volunteers become pet owners.”が合致するということであろう。もちろん“adopt an animal”で「動物を飼う」という意味で使われるが、「動物を引き取る」という意味である。問題文の19行目、“The Cat Home Project”の部分で使われている“adopt”はこの「引き取る」という意味で使われているので、問題文の“become pet owners”と選択肢の“adopt an animal”がにわかに結び付かず、やや戸惑った受験者がいたかもしれない。言い換えの問題の作問は大変難しいと思われるが、可能な限り受験者に不要な迷いを生じさせないものであることをお願いしたい。

第2問 資料に示された事項についての概要や要点の読み取りに関する設問である。設問数は10問、20点の配点で昨年と同じである。「意見」の内容が問われるなど、複数の情報を客観的に判断する思考力・判断力が求められる出題となっている。またイギリス英語の使用も見られた。本試験と同様に「資料」と「コメント」が共に示される形式で、「意見」を問われる出題もあった。しかし、本試験では出題されていた「本文で言及されていないものを選ぶ問題」は追・再試験では出題されていなかったが、本試験と追・再試験の均質性という意味では、検討の余地があるのではないかと考える。

A 自転車のメンテナンスについての情報を掲載している広告や、そのサービスの内容やそのサービスを利用した人のコメントを読み取る問題である。「広告」、「サービスの内容」、「コメント」という3つの資料を示し、情報や意見を読み取らせるという構成は、日常生活における言語活動を反映したもので大変好ましく、出題方針を反映した良問であると考えられる。設問や選択肢にもあいまいさがないと思われる。

B 特色のある交通プロジェクトについて書かれたオンライン記事を読み、概要や要点を把握して、複数の情報を整理する問題であった。問題文は分かりやすい流れで書かれてはいるが、盛り込まれている内容や情報量は多い。しかし一方で、問1から問4までは情報の整理というよりは読解問題に近い印象があり、問題文の内容が豊かであるので、示されている数字や“P-to-P”のメリットなどについてももう少し問うことがあっても良いかと思われる。問5は必要な情報を得ようとする態度がないと時間を要する問題であり良問である。

第3問 資料に示された事項についての概要や要点を読み取り、本文に示されているイラストや情報を結び付けて読むことが問われている。また、時系列をまとめる問題は今年も出題されている。設問数は5問、15点の配点で昨年と同じである。

A 海外旅行での一人での食事に関して書かれたブログ記事を読み、必要な情報を示されたイラスト

ストとともに把握することが求められている。問2のイラスト問題は、大変工夫されて作問されており、これまでに余りなかった印象のもので見事な問題であると思われる。しかし一方で、受験者にはやや難しかったのではないかと考えられる。まず、イラストが記号的で、レストランの真上から見ている視点であり、四角はテーブルを示し、数字は座っている人の人数を示している、という設定の把握にまず時間を要したと考えられる。また、テーブルに誰もいないところは白抜きの数字になっていることについては特に説明がなかった。正解に至るためには、問題文の“... I could see diners eating alone on the terrace”でテラスには一人で食事をしている人が複数人いることをつかみ、さらに“... in the lounge there were only couples and groups of guests”からラウンジには一人で食べている人がいないことを押さえることが必要になる。問題文の該当箇所の英文はとてもシンプルなものであったが、見慣れないイラストと結び付けるのは、受験者にはやや時間を要したと思われる。

- B オンライン日記で、引っ越しを予定している友人の書き込みを読み、必要な情報を読み取り、その内容を時系列で把握することなどが求められている。問1は時系列の理解を問う問題であるが、設問がやや複雑に思われる。3つの出来事のうち、どれが最初に、もしくは最後に行われたかを問う形になっているが、本試験のような、素直なタイムライン型の問いで良かったのではないと思われる。受験者にはやや時間を要するものになっている。問2における、生徒の反応を示す①のコメントについては、やや大げさな印象を受けるがどうだろうか。確かに問題文の該当箇所Christinaは“annoyed”という表現を使っているが、選択肢の“Calm down! Try not to get so angry!”という反応を引き起こすほどの状態であるとは思われない。この選択肢にはやや紛らわしさを感じた受験者もいただろう。

第4問 ファミリーイベントで行われる行事について、ボランティアたちとの打合せ内容を示すプリントを読み、情報を整理して考えることが求められている。設問数は5問、16点の配点で昨年と同じである。プリントの表、裏、そしてメモの3つの資料を理解することが必要になる。かなりの情報量があり、問われていることを整理するためにはある程度の時間を要したと思われる。資料の中でややあいまいに感じる部分がある。会議用のメモにある表の中に、“Volunteer 1 (Coordinator)”, “Volunteer 2 (if necessary)”という列がある。最初の資料文の“We need two volunteers for each of the refreshments and each activity except #1 and #3.”に対応する部分であるが、この文で読み取れるのは、あくまで「軽食およびその他の活動に2人のボランティアが必要で、1番と3番はその限りではない」ということだけである。したがって、メモの中の表の“Volunteer 1 (Coordinator)”は理解できるにしても、“Volunteer 2 (if necessary)”の“if necessary”という表現の必然性が感じられない。というのも、前述のように「2人のボランティアが必要だ」と明確に書いてあるからだ。また、1番と3番は、あくまで「2人ではない」ということであって、3人や4人以上である可能性もあり、与えられた表からその2つのアクティビティのボランティアは「1人」と判断することを求めているわけであるが、そうだとすれば“... except #1 and #3”という表現はやや不自然に感じられる。“one for #1 and #3”がより自然であろう。作問上どうしても作為的な表現になることは避けられないが、必ずしも必要ではない表現や、あいまいな表現は、時間との闘いをしている受験者に不要な迷いを生じさせないためにも、できるだけ検討していただきたい。問3は英文の読解というより注意力を試すような問題であり、もう少し他の視点から問うことが必要になると思われる。問5のレイアウトについては、英文を反映させているのは④のレイアウトであることは間違いなが、実際にディスクを投げる会場と想像すると、やや不思議なレイアウトである印象がある。

第5問 まとまりのある文章を読み、必要な情報を整理したり、時系列をまとめたり、文章から読

み取れる内容を考えさせる問題である。設問数は5問、15点の配点で昨年と同じである。場面設定としてはプレゼンテーションを行うためにメモを作成している、というものである。英語の時間にワークシートを活用して短い物語を紹介する、というものである。第5問は、本試験でも「物語文」となっている。英文自体が体温を感じる物語風のものであり、今後もこのような英文が扱われることを期待したい。幅広い読解力を育成する、という意味でもこのような文章を読む機会は受験者にぜひ持ってもらいたい。問1はKeitaの性格を問うものであり、④の“welcomes adventurous experiences”は問題文の随所で読み取れるものであるが、①の“can be at a loss in difficult situations”は、やや議論の余地があるかもしれない。解答の根拠が、ポーチを失くしたというあくまで旅の途中で起きた出来事に対するKeitaの様子、“... I was in a panic”という表現だとするならば、それを「性格」と考えるのは、問題としては成立するがプレゼンテーションのメモ作成としてはやや不自然に思われる。問2から問5については設問にも選択肢にも曖昧さがなく、取り組みやすいもので良問である。

第6問 説明的な文章を読み、それに示された事項についての概要や要点の読み取りを求める設問である。設問数は9問、24点の配点であり、本試験と同様であった。内容も専門的な知識を含むもので語数も多く、受験者にとっては相当な読解力と速読力が求められる。

A “belief perseverance”に関して述べられている記事を読み、それについて話すためのノートを作成するという設定である。問2は段落ごとの内容を抽象化することを求めているが、選択肢が紛らわしく感じ、受験者は苦勞したかもしれない。問題文の内容も英文も決して易しくはないが、設問自体は明確であるので、正確に読解ができていれば対応できたと思われる。

B “metafabric”に関する雑誌記事を読み、科学フェアで発表するプレゼンテーションのスライドを作成するという設定である。興味深い内容であり、また、現代的なテーマであるので、受験者がこういった内容の英文にしっかり取り組んでいく動機付けになると思われ、良質な問題文であったと思われる。問題文の内容も英文も決して易しくはないが、設問自体は明確であるので、正確に読解ができていれば対応できたと思われる。ただし、設問に直接関係はなく類推できるにしても“respiratory”, “cardiac”, “stethoscope”といった単語は受験者にとってはあまり親しみのないものであると考えられ、少しでも類推が容易となるような内容や言い換えを丁寧に加えるなどして配慮していただきたい。

3 総評・まとめ

本稿では2024年度（令和6年度）共通テスト「英語（リーディング）」（追・再試験）について検討してきた。大学入試センター発表の問題作成方針にも示されているように、「知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する」という方針での作問には、大変なご苦勞と創意工夫が必要とされると拝察する。実際に、過去のセンター試験で出題された発音やアクセント、語順整序等を単独で問う問題はなく、様々な資料や図表を通して英文を読み、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う内容となっており、また、外国語に関する様々な知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける、という学習指導要領における目標を反映した出題となっている。受験者が身に付けた力を十分に発揮できる良問も多い。だからこそ、本稿でいくつか指摘したように、作問の都合上から生じる不自然な表現や表記、あるいは解答上必ずしも必要でない情報等を可能な限り精査していただきたい。本試験の平均点でも明らかであるように、受験者にとってはかなり難易度が高く、負荷が強い問題となっている。限られた時間で受験者が十分に力を発揮できるように、問題量等も含めて慎重な検討をお願いしたい。今年も本試験第5問が「物語文」であったが、扱わ

れる英文については、その題材や形式については幅広いものとなるように今後も検討をお願いしたい。そうしたことによって、教員の実際の指導や生徒の学びもより豊かなものになっていくと考えられる。

4 今後の共通テストへの要望

報告書（本試験）に記載。